

提 言

ひたちなか市高校生会活動への深いご理解と温かいご支援を

平成 27 年 12 月 21 日
平成 27 年度 ひたちなか市社会教育委員の会議

社会が大きく変容している現代において、若者の生き方も多様化の傾向が進んでいます。社会の変容を正面から受け止めて積極的に社会活動に出ていき、社会の活動に参加し、社会に生きる意識や公共の心を高めている若者たちが多く出てきており望ましく頼もしく感じています。その反面、社会への関心が低く、自分たちだけで共通な価値観のもと小さな世界を作る傾向をもつ若者も増え、二極化の方向にあることも感じています。

若者の生活環境が大きく変化をしている昨今の社会の変化を踏まえ、私たちひたちなか市社会教育委員は、人間成長を図っていくためには、若い世代で経験すべき体験活動があるはずだと思い、その中に「地域社会参加型の活動」が必要であることを強く感じた次第です。その地域社会参加型の活動として、私たちは「ひたちなか市高校生会活動」に着目しました。特に、高校生会活動が完全なボランティア活動であることに視点を当てて、その活動の意義や成果について、この2年間調査研究をし、会員の高校生たちから直接に体験談を聞き、また活動の様子も視聴し、調査研究し議論も重ねてきました。

その結果、高校生会活動がこの時期の人間成長に大きく寄与する内容をもっていること、そしてもっと発展させていくべき意義が大きく、周囲の私たちは、よく理解し多様な支援をしていくべきものとの結論に達しました。

つきましては、私たち社会教育委員の思いや願いをまとめましたので、可能なところから、ぜひとも施策に反映させていただきたく、ここに提言いたします。

1 2年間の検討経緯

年間4回の社会教育委員の会議で、次のような検討を積み重ねました。

第1年次の記録 (平成26年度)	① ひたちなか市高校生会活動の活動状況を理解するために、会員から直接に説明をいただいた。 ② 青少年課の担当職員から活動の全体像の説明をいただき、活動の姿を視聴した。 ③ 議論の結果、「高校生会活動の意義」を再確認し、その支援策を模索した。
第2年次の記録 (平成27年度)	④ 支援策として、次のような手立てを考えた。 ア 中学3年生生徒に、パンフレットで直接に呼びかける。 イ 高校1年生生徒に、パンフレットで直接に呼びかける。 ウ 中高生のお家の方に、パンフレットで直接に呼びかける。 エ 市民の深いご理解をいただくために、ホームページに載せる。

2 提言の内容

2年間の調査研究と検討会を重ねて得た「ひたちなか市高校生会活動」について、次のように提言します。

- (1) 「ひたちなか市高校生会活動」は、人間成長にとって大きな意義があるので、その存在と活動の姿を、中学生や高校生に広く広報していくことが大切です。

会員となる高校生や、直前の中学3年生の生徒たちに、直接に説明し理解を求めることはとても重要です。人間的な成長に大きく寄与すること、コミュニケーション能力やリーダーシップなど人間として大切な資質を養うことが期待できます。私たち社会教育委員の会議では、生徒向けのパンフレットを作成しましたので、ご活用いただければ幸いです。

- (2) 中学生や高校生のお家の方にも、広く広報していくことが大切です。

高校生たちが、高校生会活動をのびのびとした気持ちで活動していくのには、お家の方をはじめ家族の誰からも深い理解をいただくことが大切になります。お家の方の温かいご支援があってこそ、大きな活動ができるというものです。私たち社会教育委員の会議では、お家の方向けのパンフレットを作成しましたので、ご活用いただければ幸いです。

- (3) ひたちなか市民の方々にも、広く広報していくことが大切です。

高校生会活動は、市の内外での活動というように多岐にわたります。多くの市民の人たちの中での活動もありますので、広く市民の方々のご理解が大切になります。多くの市民の方々の深いご理解と温かいご支援を受けての活動こそが、高校生たちのやりがいにつながります。私たち社会教育委員の会議では、ホームページ掲載の市民向けのパンフレットを作成しましたので、ご活用いただければ幸いです。

以上、「ひたちなか市高校生会活動」は、大きな意義を有していますので、多くの皆様方の深いご理解と温かいご支援をいただきたく、市当局の皆様方の、温かいご理解ご判断をお願いし、施策に反映させていただきたくお願いする次第でございます。

ひたちなか市社会教育委員

議長	儘田 茂樹	副議長	渋谷 照夫
委員	斎藤 孝夫, 松本 勝典, 池ノ辺 一光, 関山 彰夫, 三嶋 一幸, 磯崎 幸子, 菊池 道子, 照沼 悦子, 田中 きよ子, 鯉沼 久美子		
平成26年度	西沢 英俊, 大須賀 佐代子		